医療機器のスペシャリスト　臨床工学技士の仕事

臨床工学技士(ME)は『Medical Engineer』の略でメディカルスタッフの一職種です。医学の進歩につれ医療機器も高度化し、医学的・工学的な知識を持って機器を操作する専門家が必要となって生まれたのが臨床工学技士で、医師の指示のもと人工心肺装置・血液浄化装置・人工呼吸器といった生命維持管理装置を安全かつ的確に操作・管理をするスペシャリストです。

2016年４月より新病院開設に伴い職員は４名から８名となり、2017年４月にはさらに３名増員していただき、全国のこども病院で初めて当直制度を導入しました。当直制度の導入により、24時間365日院内に１名は必ず常駐しており、夜間、休日の緊急開心術やECMO導入、医療機器のトラブルなど迅速に対応できるようになりました。また、重複する緊急対応などにはオンコール体制をとっており、必要に応じて最低２名で対応しています。

臨床工学技士の業務内容としては、人工心肺装置の操作をはじめ、集中治療領域における補助循環装置や血液浄化装置、人工呼吸器といった医療機器の操作や管理。また、医療機器の保守管理業務を行なっています。

2019年９月からは正規職員10名（定員11名）で業務に取り組んでおり、ベッドサイドモニタ、iNO、VN500(NICU)など中央管理化の拡大を進めています。

また、産科病棟の医療機器の中央管理化も進めており、今後、各診療科などからの業務依頼については順次対応していきたいと考えています。

現在、我々が管理している医療機器は1500台以上になり、返却されてくる機器の点検だけでも１日65件以上になります(年間21000件以上)。そのほかにも、医療機器の故障修理対応や定期点検を始め、勉強会の開催や機器に関する様々な相談に対応するなど幅広く活動しています。

医療機器のスペシャリストとして、臨床工学技士10名でより安全で安心した良い医療環境を作れるよう更なる業務の拡大と充実に日々努めていきます。

Concept コンセプト

●基本理念　周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

●基本方針
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

編集後記

暑い夏が終わりやっと秋が訪れてきます。皆様にとっての秋は？スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋…。それぞれ人によって楽しみ方があります。私は、学びの多い秋にしたいと思います！！

ご希望やお気づきの点がありましたら広報委員会までお寄せください。

委員長：大津雅秀
副委員長：松本奈美
委員：深江登志子　西森玲治
貝藤裕史　染谷真紀
河本和泉　笠木憲一
井口秀子　橋本恵美
時　克志　礒元啓吾
森　泰隆　辛　浩一

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで

兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL

〒650-0047
神戸市中央区港島南町１丁目6-7
TEL. 078-945-7300
FAX. 078-302-1023
http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/
e-mail:info_kch@hp.pref.hyogo.jp

01 病P2-014A4

げんきカエル No.67

兵庫県立こども病院ニュースレター

令和元年(2019)　10月１日

理化学研究所から講師を招いて学術セミナーを開催しました

臨床研究支援室長　長谷川　大一郎

当院はポートアイランド島内の様々な先端医療技術の研究開発機関と隣接しています。なかでもポートライナーを挟んで徒歩圏内にある理化学研究所ー生命機能科学研究センター（RIKEN Center for Biosystems Dynamics Research: 理研BDR）は、ヒトの発生・誕生から死までのライフサイクルを支える生命機能の解明に取り組んでいる研究施設であり、国際的な研究拠点の一つでもあります。

今回、2019年８月６日(火)に理研BDRから講師をお招きして、こども病院講堂において理化学研究所ー兵庫県立こども病院第３回サテライトセミナーを開催しました。セミナーのテーマは、“呼吸器の発生と再生のメカニズムについて考える”とし、理研BDRからは呼吸器の発生と再生に関する細胞レベルの研究に従事されている森本充博士、当院からは呼吸器外科の立場から前田貢作副院長に御登壇いただきました。森本博士は、ヒトの呼吸器（肺）にも修復・再生能力が備わっており、徐々に解明されつつある再生のメカニズムについてお話しいただきました。また前田副院長からは新生児期～小児期にみられる呼吸器の発生異常とその根治術について講演頂きました。診療部を始め様々な部署から多数の職員が参加して、基礎研究から将来の再生医療に至るまで活発な議論がなされました。

今後も兵庫県立こども病院は理研BDRと互いにヒトの発生・誕生から成長へのライフサイクルに関わる高度小児医療を担う専門機関と基礎研究機関として学術的な交流を進めていきたいと考えています。

ふれあい看護体験

高校2年生
平井　春菜

【参加後の感想】

２回目のふれあい看護体験でしたが、病院によって全然違うことがわかり新しい発見ができて良かったです。私は、救急・HCU病棟で看護体験をしました。色々な病気の患者さんがいる中、一人ひとりにあった治療をするのはすごく大変だと思いました。軽症の人もいれば重症の人もいて、一人ひとり薬の種類も量も違って、人の命を預かることの責任の重さを実感できました。

そして、看護師と患者さんのコミュニケーションはすごく大切だと思いました。色々な言葉かけや会話をすることで患者さんを励まして、一人ではなく一緒に治療をしていくという気持ちに、患者さんになってもらうことはすごく素敵だと思いました。

今回看護体験を通して、私も小さな子どもたちが頑張っていることをサポートできる看護師になりたいという思いが強まりました。大変なことがたくさんあると思うけど絶対にやりがいのある仕事だと思うので、頑張って看護師を目指したいと思います。

【病院の担当者からの感想】

看護部参事　松本 奈美

７月24日（水）高校生28名（３年生18名、２年生10名）がふれあい看護体験に参加されました。家族ケア、連携、信頼関係の大切さを感じ、看護師になりたい気持ちが強くなったようです。

小児看護＝笑児看護を体験し、輝く笑顔が素敵でした。

看護体験した高校生28名

シアトルから来たボランティア

ラム 真紀子

私の名前は、ラム真希子です。マリナーズで有名なシアトルで高校に通っていて、９月に３年生になります。今年の夏休みに、兵庫県立こども病院でボランティアをする機会に恵まれました。短い期間でしたが、忘れられない素晴らしい体験になりました。

今回のボランティア活動は主に子どもたちのお世話のお手伝いでした。お世話と言っても、子どもたちと遊ぶことが主で、特にみんなで妖怪ウオッチをつけて仮面ライダーごっこをしたことや、七夕のためのお芝居の準備に参加できたことを楽しく思い出しています。

スタッフの皆さんに会う前は、日本語があまり得意ではない私が迷惑になったり邪魔になったりしないかと心配していました。でも、みなさんが最初の日から温かく迎えて下さって、心配はすぐ吹き飛びました。私のボランティア活動の面倒を見てくださった保育士さんは、和英辞書を持ってきてくださったり、高校のテキストを出して英語の復習をしてくださったりしたおかげで、わからなくて困ったりしないですみました。みなさんのおかげで最初は少し戸惑った関西弁も、わかるようになりました！

シアトルの病院でのボランテイアの経験やs昨年受けた腰の手術の個人的な体験を神戸での経験と比べると、アメリカと日本の医療や保険のシステムの違いを感じます。たとえば、アメリカでは、大きな手術でも入院することは稀です。私の受けた腰の手術のあとでも、麻酔から目が覚めたらすぐに車椅子に乗せられて家に帰されました。日本では、入院は稀ではないようですね。他に気がついた違いは、神戸のこども病院のお食事が美味しそうだったことです。シアトルの病院の食事は美味しそうではなく食べたいと思いませんでしたが、神戸の病院食はいい匂いがして食べてみたいと思いました。でも、それは私が神戸の食べ物が大好きになったからかもしれません。

兵庫県立こども病院の皆さんのお陰で本当に素晴らしい経験が出来ました。この経験を通じて、医療関係の仕事につきたいと将来の目標がはっきりしました。アメリカの高校でも、高校３年生になると大学の進路のことで忙しくなります。目的がはっきりしたおかげで、どの大学に行きたいかも、はっきりしてきました。今回のボランテイア活動は楽しいばかりではなく、とても有意義な経験になりました。日本語が、あまり上手ではない私を温かく迎えてくださったこども病院の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。